

意見書

多可町立小中学校の規模の適正化に向けた
具体的な方策について



令和 4 年 1 月

多可町地域の学校教育のあり方を考える会

目次

はじめに	1
1. 中学校について	2
1) 生徒数の現状と今後の推移	2
(1) 中区	
(2) 加美区	
(3) 八千代区	
(4) 多可町全体	
2) 検討・協議の結果	3
3) 具体的な方策	4
(1) 統合の方法	
(2) 統合の時期	
(3) 統合の場所	
(4) 統合後の学校	
2. 小学校について	5
1) 児童数の現状と今後の推移	5
(1) 中区	
(2) 加美区	
(3) 八千代区	
(4) 多可町全体	
2) 検討・協議の結果	6
(1) 小学校	
(2) 小中一貫教育の研究	
3) 具体的な方策	8
(1) 統合の方法	
(2) 統合の時期	
(3) 統合の場所	
3. 要望事項	9
1) 通学	
2) 心のケア体制	
3) 教員が余裕を持って子どもたちと向き合える時間の確保	
4) よりよい教育環境の整備	
5) 学校の文化、学校の良さを生かす視点	
6) 地域活性化・跡地利用	
7) 周知	
おわりに	12
【参考資料】	13

はじめに

全国的に少子化が進む中で、多可町においても例外なく、人口減少とともに児童生徒数の減少が続いています。令和3年度、小学校で5校中3校が全学年1学年1学級となり、令和4年度は5校中4校が全学年1学年1学級となる見通しです。また中学校においても、令和2年度に町で初めて1学年1学級の学年が生じ、令和3年度には3校中2校で1学年1学級の学年が生じるなど、児童生徒数の減少が著しく、小中学校の小規模化が進行しています。

また、近年の出生数の減少にも歯止めがかからず、平成17年は171人であった出生数が、平成29年には89人と2桁となり、令和2年には70人、学年でみると令和2年度生まれは66人と町全体でも1学年2学級しか編制できない状況となっています。【資料1】

平成24年4月に策定された「多可町小中学校規模適正化基本方針」【資料2】において、多可町における適正な学校規模は、小学校は「複式学級が生じないこと」、中学校は「1学年2学級以上が確保できること」と定められています。現在、特に中学校では、1学年2学級が維持できない状況が生じ、適正な学校規模が維持できない状況であるため、この基本方針に基づき令和2年7月に「多可町地域の学校教育のあり方を考える会」を設置して、保護者や地域みなさんと一緒に、「子どもたちにとってよりよい教育環境」の実現に向けて協議を開始しました。

本会では10回に及ぶ会議を重ね、また就学前から中学生までのお子さんをお持ちの保護者の意見や住民説明会での地域の方々の意見をできる限り反映させ、それぞれの立場の委員のみなさんと一緒に、長い時間をかけて多可町立小中学校の規模の適正化に向けた具体的な方策についての意見をまとめました。ここにその意見書を提出いたします。

1. 中学校について

1) 生徒数の現状と今後の推移

(1) 中区

中町中学校においては、令和11年度まで1学年2学級を維持することができます。

しかし、令和12年度から急激に生徒数が減少し、令和12年度の新入生が1学年1学級となり、クラス替えができない状況になると予測しています。その後、令和14年度から2学年で1学年1学級となり、生徒数も令和2年度と比較して約40%減少する見込みです。中町中学校では、今後10年間で学校の小規模化が進みます。【資料3】

(2) 加美区

加美中学校においては、令和3年度の新入生が1学年1学級となりました。クラス数の減少は、教員の配置数に直接影響を与えることから、教科担任制の中学校では専門的な教員の配置が難しくなっています。

さらに、令和10年度から生徒数の減少が顕著となり、全学年で1学年1学級、クラス替えができない状況となります。

そして、令和12年度には全校生が100人を下回る規模になると予測しています。【資料3】

(3) 八千代区

八千代中学校においては、令和2年度に町内で初めて中学校で1学年1学級となりました。また、令和3年度には、1年生と2年生で1学年1学級となり、2つの学年でクラス替えができない状況になっています。クラス数の減少は、教員の配置数に直接影響を与えることから、教科担任制の中学校では専門的な教員の配置が難しくなっています。

さらに、令和5年度から生徒数の減少が顕著となり、令和7年度には、全学年で1学年1学級、クラス替えができない状況になると予測しています。

そして、令和9年度には全校生が100人を下回る規模になると予測しています。【資料3】

(4) 多可町全体

令和10年度以降、多可町内の2つの中学校で、全学年で1学年1学級となり、クラス替えができない状況となります。クラス数の減少は、教員の配置数に直接影響を与えることから、教科担任制の中学校では専門的な教員の配置がさら

に難しくなることが懸念されます。

また、仮に町全体を1校としてみた場合は、令和14年度までは1学年3学級を維持できる見通しですが、令和15年度以降、1学年3学級から2学級の時代に入っていくと予測しています。少子化のスピードは想像以上に早いと感じます。【資料3】

部活動については、ここ数年、合同チームで出場する部活動が増えています。令和3年12月現在は、野球部、ソフトボール部、サッカー部で合同チームが必要な学校があり、女子バスケットボール部は令和3年7月の総体をもって廃部となりました。部活動の選択肢がどんどん少なくなっています。【資料4】

このような中学校の状況を踏まえて、次のとおり協議を行いました。

2) 検討・協議の結果

(1) 中学校

本会では、中学校は、「出来るだけ早く統合する」という結論に至りました。

まず子どもたちに「どんな教育を受けさせたいか」「どんな学校に通わせたいか」「どんな大人になって欲しいか」について時間をかけて議論し、「子どもたちにとって望ましい教育環境」のあり方についてまとめました。望ましい教育環境としては、「一人一人にきめ細やかな丁寧な指導が受けられる」「専門的で充実した学習活動が保障される」「たくさんの生徒による集団活動や部活動が実施できる」「クラス替えができる」「いろいろな価値観に触れながら成長できる」「適正な人数の教員配置がある」「多くの教員で、多くの価値観で教育が受けられる」などが挙げられました。【資料5】

1学年1学級と小規模化する中学校においては、配置される教員の定数などから、必要な免許を持った教員が配置できない状況があり、教科担任制という点からも、特に学習の保障に不安を抱く保護者も多くありました。また、教員自身も同一教科に複数の教員が配置されず、同一教科の教員と自らの指導について確かめ合うことが出来ず、不安を感じている若い教員もいるという状況です。

また、学校の小規模化と少人数教育とは本質が異なり、きめ細やかな教育を行うには習熟度に合わせた授業を展開する必要があるため、クラスの人数が少ないことだけで少人数教育が実現できるわけではないことも理解しました。少人数教育を実現するためには、適切な人数の教員配置が必要です。教員の定数は学級数に起因し、学級数は生徒数で決まりますので、「子どもたちにとって望ましい教育環境」を実現するためには、ある程度の生徒数を確保することが

必要であると言えます。

就学前のお子さんから中学生までのお子さんをお持ちの保護者からいただいた意見を集約すると、中学校については「統合に賛成」「統合もやむを得ない」など学校統合に前向きな意見が多い結果となりました。【資料6】

さらに3中学校の生徒によるワークショップにおいても、中学生自身も現状の学校生活に満足しながらも、「たくさん的人数で行事を作りたい」「生徒数、学級数、先生的人数も少ないので、3校統合すればいい」「3校統合して部活動の数を増やして欲しい」など、生徒の本音を聞くことができました。そして、私たち委員は、その様子を動画で観たことにより、地域性の異なる3校が統合しても心配ないのではないかと感じることができ、その上で、様々な議論を通して統合やむなしと判断し、「中学校は出来るだけ早く統合する」という結論に至りました。

3) 具体的な方策

(1) 統合の方法

3中学校を1中学校に統合することが望ましいと考えます。

(2) 統合の時期

中学校の現状、生徒数の推移、教員の適正配置、学習の保障などから、中学校はなるべく早く統合することが望ましいと考えます。具体的な時期については、合併特例債が有効活用できる令和8年4月開校を目指すことが望ましいとしました。

(3) 統合の場所

統合中学校の場所は、3区からの通学時間や生徒の分布状況により「多可町中区」が望ましいと考えます。中区の中でも、アスパル、中央公園グラウンド、子育てふれあいセンター、給食センター、多可赤十字病院、ベルディーホール、(仮称)生涯学習センターのような体育・教養・文化・医療施設に近く、連携が図りやすい場所が望ましいと考えます。

また、将来的に、小学校が統合することも想定し、周辺施設との調和と連携が図れるよう統合中学校の場所を検討してください。

町の合併後、初めて3区にある施設の統合となります。旧町の枠組みにとらわれない多可町の子どもたちの母校となるように、新たな場所で、新たな校舎で、新しい中学校をスタートするのが望ましいと考えます。

(4) 統合後の学校

これまで3中学校が育んできた伝統を大切にしつつもとらわれることなく、夢と希望を持って新しい学校づくりに取り組んでほしいと思います。そして、統合して良かったなと子どもたちも、保護者も、地域も、教員もそう思える学校にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

統合は、「子どもたちにとって望ましい教育環境」の実現に向けて、将来の子どもたちのことを最優先に考えての決断です。魅力ある学校づくり、教育環境や通学環境の変化に伴う子どもたちへの対応に、十分に予算をかけて取り組まれることを切に希望します。

2. 小学校について

1) 児童数の現状と今後の推移

(1) 中区

中町南小学校においては、令和3年度は3つの学年で1学年1学級となっています。多い時代は、1学年4～5学級あった学校ですが、現在は児童数の減少が大きくなっています。

中町北小学校においては、平成25年度からすでに全ての学年で1学年1学級になっています。今後もこの状況が続いていくと予測しています。

そして、令和9年度になると中区全体でみても、新入生（令和2年度生まれ）は1学年1学級となり、児童数の減少が激しくなっています。【資料7】

(2) 加美区

松井小学校においては、平成29年度から全学年1学年1学級となっています。令和9年度の状況をみると、今後の新入生の数によっては複式学級の可能性があります。

杉原谷小学校においては、平成16年度から全学年1学年1学級となっています。特に、令和6年度に7人の新入生が予測され、複式学級の可能性が高まりましたが、ここ数年出生数は回復の兆しが出ております。しかし、まだ複式学級の可能性は残っています。そして、令和9年度（令和2年度生まれ）、加美区全体をみても、全学年1学年1学級に向かっていることが分かります。【資料8】

(3) 八千代区

八千代小学校においては、平成28年度に小学校が統合し6年目を迎えています。

すが、令和3年度は、4つの学年で1学年1学級となっています。さらに令和4年度は、全学年1学年1学級になると予測をしています。それ以降も全学年1学年1学級が続き、令和9年度（令和2年度生まれ）、新入生が11人となり、今後の出生数によっては複式学級の可能性があります。【資料9】

（4）多可町全体

仮に町全体を1校としてみた場合は、現時点では1学年4学級から5学級の大規模校の規模ですが、令和2年度の出生数などから、今後5年間で児童数が約300人減少すると予測されるため、今後の出生数や児童数を十分に注視していく必要があります。【資料9】

このような小学校の状況を踏まえて、次のとおり協議を行いました。

2) 検討・協議の結果

（1）小学校

本会では、小学校は、「当面は現状維持としつつ、将来的には統合が望ましい」という結論に至りました。統合の時期や統合の方法として、町で小学校を1校にするのか、まずは区で統合するのかについては、さまざまな意見があり、本会としては、「継続して審議する必要がある」としました。

ここ数年、町では急激な少子化が進行しており、現在のところ全ての学校で複式学級は生じていないものの、学級の小規模化は進んでいる状況です。保護者の中にも、クラス替えができないと学級のルールや児童の中の価値観が固定化され、多様なものの見方や考え方に触れたり、新しいルールや学級文化、人間関係を作り上げようとしたりする機会が少なくなることを懸念する意見も多くありました。

特に、松井小学校・杉原谷小学校の児童数の現状や今後の推移をみると、加美区の小学校についても、統合が喫緊の課題であり、中学校の統合を待たずに、すぐにでも統合することが望ましいという意見がありました。また一方では、数年後に小学校も町で1校に統合する場合には、統合を繰り返すことで子どもたちにはあらゆる面で負担が大きくなると心配する意見もありました。

このような意見を踏まえて、本会としては「小学校についてもクラス替えが可能な教育環境が望ましい」と考え、将来的には統合が望ましいとしています。出生数や児童数を注視し、当面は現状維持としながら継続して審議することが望ましいという結論に至りました。

(2) 小中一貫教育の研究

小中一貫教育とは、小学校と中学校で目指す子ども像を共有した上で、小学校と中学校の教育課程を調整し、一貫性を持って体系的に教育活動を行うことにより教育環境の充実を図ろうとするものです。

子どもたちは小学校1年生から中学校3年生までの義務教育9年間の中で、日々の学習を積み上げて成長していきます。小中一貫教育の推進が求められる背景には、一般的に、発達の早期化や中1ギャップへの対応、学校現場の課題の多様性・複雑化（貧困、虐待など複雑な家庭環境で育つ児童生徒の増加、特別な支援が必要な児童生徒の増加）などが挙げられており、本町においても同様の状況だと思えます。

本会においては、将来的には「※施設一体型の小中一貫校（町内で、小学校・中学校1校）」が望ましいと考えますが、まずは教育委員会において、学校や地域とともに小中一貫教育についての研究をお願いします。

そして、小学校については、時間をおいて改めて協議を始めるということではなく、「子どもたちにとって望ましい教育環境」の視点を大切に、来年度以降も小中一貫教育の研究を進めていただく中で、引き続いて協議してくださいますようお願いいたします。

〔用語解説〕

※施設一体型の小中一貫校

同一の敷地内に小学校及び中学校の全学年（9学年）があり、組織・運営ともに一体的に小中一貫教育を行う形態のことです。施設一体型では、小中学校の教員が一体となって教育活動を実施することになります。

また、施設分離型（施設隣接型）の小中一貫校とは、離れた場所（又は隣接した場所）に配置されている小学校及び中学校で、教育課程及び教育目標に一貫性を持たせる形態で、学校行事を小学校及び中学校で合同実施することなどで、一体感のある教育活動につなげる小中一貫校のことです。

3) 具体的な方策

(1) 統合の方法

統合の方法については、さらに議論が必要であると判断しました。

区ごとに小学校を統合しても、すぐに望ましい教育環境が維持できなくなる可能性があり、学校統合を短期間に繰り返すことは、統合に関する協議、準備等が複雑で、児童や保護者、そして教員にとっては精神的、肉体的な負担が大きく、特に保護者にとっては金銭的な負担も大きいと考えます。

よって、児童が在学中に2回の学校統合を経験しないよう配慮することも大切だと考え、将来的には町全体で統合するのが望ましいとしました。しかし、その際には、各区の状況を十分に把握し、保護者や地域の意見に耳を傾け、丁寧な議論が必要だと考えます。

(2) 統合の時期

統合の時期については、さらに議論が必要であると判断しました。

統合の目安としては、「多可町小中学校規模適正化基本方針」に基づく「小学校は複式学級が生じない」規模を基本としますが、中学校統合後、出生数や児童数の推移を注視し、1学年の児童数が10人前後を推移した場合など、多様な考え方を生み出せる環境が確保できない状態や男女比に著しい偏りが予測される場合には、「多可町地域の学校教育のあり方を考える会」を設置し、小学校のあり方について協議を開始することが望ましいと考えます。

また、学校統合の効果を最大限発揮するためには、「小学校についてもクラス替えが可能な教育環境が望ましい」と考えますので、統合後の学校において、1学年2～3学級を維持できない状況が想定される場合も、「多可町地域の学校教育のあり方を考える会」を設置する新たな目安として提案します。

ただし、小学校の統合に関しては、「子どもたちにとってよりよい教育環境」を最優先に考えた上で、地域住民の意見も丁寧に聴きながら検討することが必要だと考えます。

(3) 統合の場所

統合の場所については、中学校と同一敷地内での小学校施設の設置が望ましいと考えます。理由は、将来的に小学校と中学校が連携し、小中一貫教育を推進することになった場合は、児童生徒や教員の移動による体力的、時間的負担を軽減することができる同一敷地内での小学校施設の設置が望ましいと考えます。

3. 要望事項

1) 通学

学校統合の際に、大きな課題の一つである通学方法については、本会はもちろんのこと、保護者説明会、住民説明会でも多くの意見が出ました。

まず、バス通学者（時間的制約を受ける児童生徒）をできる限り少なくするために、統合中学校の場所を中区としたため、通学方法が変わる加美区、八千代区の児童生徒及び保護者に対して十分配慮が必要です。現在のバス通学者と同様に通学バスの無償化をお願いするとともに、新規のバス路線による時間短縮の検討やバスの増便、運行スケジュールの調整、スクールバス導入の検討等を行い、家庭学習の時間に格差が生まれないように配慮してください。テスト期間や部活動、行事等臨時的なバスの運行にも対応できる運行方法の検討、また、将来小学校が統合する場合には、特に低学年のバス通学への配慮が必要だと考えます。

そして何より、安全で安心な通学路の確保をお願いします。通学路の設定の際には、警察、県、関係機関と十分に調整し安全の確保に努めてください。

また、公共交通（路線バス等）、都市計画や道路計画の見直しなどにより、よりみんなが集まりやすく、よりアクセスのしやすいエリアとなるように各関係機関へ要望してください。

2) 心のケア体制

保護者として最も心配することは、3区の子どもたちが一緒に楽しく学校生活を送れるか、新しい環境に順応できるかです。そのための準備と対策をお願いします。

例えば、5小学校又は区ごとの合同による授業や行事など、早くから子どもたちが親しくなれるような交流授業を実施したり、統合前から3中学校の校則や制服等を統一したり、統合に向けた一体感を醸成し、統合後スムーズに学校生活を送れるような配慮をお願いします。併せて、保護者の不安を取り除くために、制服など統合に向けた準備等の情報も早期に周知し、家庭での新たな負担とならないように配慮してください。

また、悩みを持つ子どもたちや保護者のために、「素直に悩みを打ち明けられる相談室」の設置やスクールカウンセラーの複数配置など、子どもたちや保護者に寄り添った体制を整備するとともに、「子どもの最善の利益推進に向けた連携協定」を締結した兵庫県弁護士会の協力を得ながら、子ども、保護者、教員が安心して学校生活を送れる、いじめがない、いじめがなくなる、いじめを未然に防止できるような体制を整えてください。

そして、環境の変化に対応しづらい子どもたちや障がいを持つ子どもたち、登校することが難しい子どもたちなどに対し、きめ細やかな配慮を継続して行えるよう、学校全体、チームで対応する体制を統合後の学校でも整備していただきますようよろしくお願いします。

3) 教員が余裕を持って子どもたちと向き合える時間の確保

心のケア体制の最も重要なことの一つとして、教員が子どもたちと向き合う時間の確保が必要とされています。教員が本来の業務に専念できるように、※スクール・サポート・スタッフの配置を行い、教員数が減少しても、子どもたちと向き合う時間が減らないような「働き方改革」の実現に向けた取り組みを、保護者や地域の理解の上実施してください。併せて、教員自身が心身共に健康でやりがいを持って教育活動を行うことができるように、ストレスチェックの実施など教員のメンタルヘルス対策も充実させてください。

また、段階的に35人学級が実現しましたが、一人一人にきめ細やかな指導ができるように、30人学級などさらなる少人数学級の実現に向けて、国・県等へ継続して要望をお願いします。

4) よりよい教育環境の整備

子どもたちが落ち着いた環境の中で、しっかりとした教育を受けられるように、充実した教員配置に加え、教育の質をさらに上げ、教員の能力が最大限発揮できるような環境が重要だと考えます。例えば、GIGAスクール（1人1台パソコン）の効果的な活用など新しい教育ツールの活用や、文化や自然を生かした特色あるカリキュラムの開発など町独自の教育スタイルを作り上げること、また部活動だけでなく、選択肢の多い充実した放課後の活動を提案することも教育環境整備の一つだと考えます。

また、ハード面での教育環境整備として、統合中学校の建設場所を考える際には、将来小学校の統合も想定し、最終的な構想を立てて実施していただきたいと思います。同時期に建設が予定されている（仮称）生涯学習センター建設と歩調を合わせて、将来を見据えた調和のとれた計画を検討してください。

5) 学校の文化、学校の良さを生かす視点

これまで長く育まれた中町中学校、加美中学校、八千代中学校の風土を継承しつつも、新しく通う学校が母校となる子どもたちにとって、これまでの伝統や文化にとらわれることなく、新しい統合中学校にふさわしい、時代に合った校風を、子どもたち、教員、保護者、地域とともに「みんなの学校」として創

り上げていくことが望ましいと考えます。

その上で、地域に学校がなくなるのではなく、住民や特色ある文化と連携し、そして地域とともにある学校（※コミュニティ・スクール）となるように、地域を挙げて応援する必要がありますし、応援してもらえるような学校づくりをお願いします。

6) 地域活性化・跡地利用

保護者説明会や住民説明会において、地域に学校がなくなる不安と併せて、跡地活用のビジョンや学校がなくなる地域への活性化対策についてご意見をいただきました。出来るだけ早い段階で跡地活用について協議を開始するとともに、民間の力を活用するなど、地域と丁寧な協議をお願いします。

また、中区に人口や施設が集中することにより、加美区、八千代区の人口減少が危惧されます。各区の人口の減少などを常に注視し、定住・移住対策や公共交通の維持など学校がなくなった地域にもしっかりと目を向けてください。

そして、地域共生社会の実現により地域力を高め、大人も子どもも寛容で、住みやすい、若者が帰りたくなるような地域づくりを、官民挙げて進めてください。

7) 周知

この意見書の内容を尊重し、多可町教育委員会において責任を持って「第2次多可町学校規模適正化基本計画」を策定してください。策定後は、学校の将来が見え、理解が得られるように、速やかに地域、保護者、子ども、教員への十分な周知をお願いします。

そして、統合時の制服や体操服の買い替えなど、家庭への新たな負担にならないよう、開校に向けての準備状況についても、積極的に情報発信され、誰一人取り残すことのない「やさしい統合」となるようにお願いします。

〔用語解説〕

※スクール・サポート・スタッフ

教職員の負担軽減を図り、教職員が本来担うべき業務に専念できる環境及び児童生徒と向き合う時間の確保を目指すために、職員室で事務的な業務（印刷、電話対応等）を支援するために配置するスタッフのこと。

※コミュニティ・スクール

どんな子どもたちを育てたいのか、そのために何をするのかという目標やビジョンを地域と学校が共有し、それぞれの課題解決に向けて、保護者や地域と一緒に、「地域とともにある学校」を作っていく仕組みです。

おわりに

「自分の母校がなくなってしまう・・・」

多くの町民の皆さんが寂しい思いをされることと思います。私たち委員にとっても苦渋の決断でした。この決断の背景には、「子どもたちにとってより良い教育環境」をつくる、ただこの一点について、本会の意見は少しずつまとまってきました。

今、多可町内の学校では、先生方が本当にきめ細かく、子どもたち一人一人に対応されていることを実感しています。子どもたちの悩みや生活の様子を学校全体で共有され、チームワークで子どもたち一人一人を支えておられます。

学校で何か問題が起こったとしても、先生方は子どもたちにしっかりと寄り添い、子どもたちの声にしっかりと耳を傾け、一体となって対応されています。多可町は本当に手厚い教育がなされていると感じています。

学校がなくなると、地域は非常に寂しい思いはしますが、一步、学校の中に入ると、子どもたちの落ち着いて一生懸命学んでいる姿がそこにあります。子どもたちにとっては、新しく通った学校が母校になりますし、統合しても地域で子どもたちを育て、地域力で子どもたちが生きる力を身に付けていくことは変わりありません。

多可町は、日に日に変わっている感じがしています。良い方向に変わっていると思います。しかし、これからの大きな課題は少子高齢化。どこにいてもこの問題にぶつかって悩むことが多いですが、一步一步、前へ進んでいかなければなりません。意見が違うときも、意見が同じときもあると思いますが、これからも、子どもたちのための議論が引き続き深められることを期待しています。

多可町教育委員会におかれましては、この意見書を尊重し、丁寧に対応していただきますことを重ねてお願いします。

【参考資料】

【資料1】 出生数	1
【資料2】 多可町小中学校規模適正化基本方針	2
【資料3】 中学校生徒数・学級数推計表	14
【資料4】 令和3年度部活動加入状況	15
【資料5】 子どもたちにとって望ましい教育環境のまとめ	16
【資料6】 就学前から中学校までのお子さんをお持ちの保護者意見	17
【資料7】 小学校児童数・学級数推計表（男女別）（中区）	18
【資料8】 小学校児童数・学級数推計表（男女別）（加美区）	19
【資料9】 小学校児童数・学級数推計表（男女別）（八千代区・全体）	20
【資料10】 地域の学校教育のあり方を考える会設置要綱	21
【資料11】 地域の学校教育のあり方を考える会委員名簿	23
【資料12】 地域の学校教育のあり方を考える会協議経過	25
【資料13】 多可町立小中学校の規模の適正化に向けた具体的な方策 についての意見書の提出について（依頼）	28

【資料 1】

ここ数年、出生数が大幅に減少しています。

※1月1日～12月31日に生まれた子どもたちです。

年	出生数	年	出生数
平成17年	171	平成25年	111
平成18年	189	平成26年	116
平成19年	149	平成27年	116
平成20年	166	平成28年	107
平成21年	137	平成29年	89
平成22年	138	平成30年	86
平成23年	131	令和元年	77
平成24年	130	令和2年	70

平成17年と比較して59%減少

『兵庫県保険統計年報』

令和2年4月2日～令和3年4月1日までの出生数

R3.4.15現在

小学校区	中南小		中北小		松井小		杉原谷小		八千代小		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	12	7	9	6	6	4	6	5	8	3	41	25
19		15		10		11		11		66		
中学校区	中区		加美区		八千代区		合計					
	男	女	男	女	男	女	男	女				
	21	13	12	9	8	3	41	25				
34		21		11		66						

①全ての学校で単学級

②各区ごとの統合でも、全ての区で単学級（35人学級）

③町全体でも2学級（40人学級）

多可町小中学校規模適正化基本方針

～ 子どもたちに生きる力と豊かな心を育む学校づくり ～

平成24年4月

多可町教育委員会

はじめに	1
第 1 章 小中学校の現状と今後	2
1 多可町小中学校の現状	2
(1) 小学校の児童数・学級数の推移	
(2) 小学校の地区別児童数の推移	
(3) 中学校の生徒数・学級数の推移	
(4) 中学校の地区別生徒数の推移	
(5) 小中学校の学校規模	
2 多可町小中学校の今後	4
(1) 小学校の児童数の今後	
(2) 小学校の地区別児童数・学級数の今後	
(3) 中学校の生徒数の今後	
(4) 中学校の地区別生徒数・学級数の今後	
(5) 小中学校の学校規模の今後	
第 2 章 学校規模による課題	6
1 学校の小規模化の課題	6
(1) 教育上の課題	
(2) 学校運営上の課題	
2 学校規模の適正化の必要性	7
第 3 章 多可町の学校規模や適正配置の基本方針	7
1 学校規模適正化の基本的な考え	7
2 学校の適正配置について	8
3 「地域の学校教育のあり方を考える会」の設置	8
第 4 章 学校規模適正化の実現に向けた具体的方策	9
1 「地域の学校教育のあり方を考える会」の設置	9
2 協議内容	9
3 協議期間	9
おわりに	9

はじめに

全国的に少子化が進む中であって、多可町においても児童生徒の減少に伴い、小中学校の小規模化が進行しており、児童生徒の社会性を育む上での教育環境や学校運営など、様々な面においての影響が心配されます。

このことから、多可町教育委員会では、子どもたちにより良い教育環境を提供するためには、どの程度の学校規模で教育を行うのが望ましいのか、またそれを実現するためにはどのような手法が必要なのかなどを検討するため、平成22年9月に学識経験者や区長会、PTA、学校関係者などからなる「多可町学校規模適正化検討委員会」に、多可町小中学校の適正規模と適正配置について諮問しました。

同検討委員会では、子どもたちにとってより良い教育環境の実現という観点で、約2年間にわたって審議され、幼稚園児や小中学校の保護者を対象に実施された学校規模適正化についての意識調査などの結果も考慮しながら平成24年2月に「多可町小中学校の規模及び配置の適正化について」答申されました。

多可町教育委員会では、多可町教育の基本目標である「明日の多可町を担うこころ豊かな人づくり」を見据え、子どもたちがたくましく育ち、社会性や協調性、向上心、創造力を培い、生きる力を身に付けるためには適正な集団規模を確保する必要があると考えています。

「地域の学校」として親しまれている学校の再編は、単なる数合わせの論議ではありません。将来を担う子どもたちにとって、より良い教育条件を整備し、最適な教育環境を作るため、検討委員会の答申を十分尊重しながら、学校規模の適正化に向けて、ここに「多可町小中学校規模適正化基本方針」を定めました。

この方針に基づき、子どもたちにとって望ましい教育環境の実現に努めてまいります。

第1章 小中学校の現状と今後

1 多可町小中学校の現状

(1) 小学校の児童数・学級数の推移

多可町の小学校の児童数は、昭和50年度の2,585人（ピーク時）から平成23年度には1,380人と大きく減少しています。学校数は7校で、この間変化はありません。学級数は昭和57年度の80(※)に対して、平成23年度には52になっています。結果として小学校の小規模化が進行し、かつて1校あたり約360人だった児童数は、現在は、約200人まで減少しています。

(※)学級数は普通学級のみ数で、特別支援学級は含んでいません。

(2) 小学校の地区別児童数の推移

地区別（昭和57年度と平成23年度を比較）で見ると中区の児童数は1,184人から597人(△587人、△50%)、加美区は710人から426人(△284人、△40%)、八千代区は588人から357人(△231人、△39%)となっており、中区の減少率が最も大きくなっています。

学校基本調査 児童数(人)

	区分	S47	S50	S52	S57	S62	H4	H9	H14	H19	H23
小学校	中	1,184	1,248	1,209	1,184	979	918	797	769	719	597
	加美	644	688	705	710	701	614	516	500	438	426
	八千代	657	649	609	588	479	469	441	413	392	357
	計	2,485	2,585	2,523	2,482	2,159	2,001	1,754	1,682	1,549	1,380

(3) 中学校の生徒数・学級数の推移

多可町の中学校の生徒数は、昭和52年度の1,303人（ピーク時）から平成23年度には747人と大きく減少しています。学校数は3校で、この間変化はありません。学級数は昭和57年度の33に対して、平成23年度には22となっています。かつて1校あたり約430人だった生徒数は、現在約250人まで減少しています。

(4) 中学校の地区別生徒数の推移

地区別（昭和57年度と平成23年度を比較）で見ると、中区の生徒数は605人から353人(△252人、△42%)、加美区は368人から199人(△169人、△46%)、八千代区は307人から195人(△112人、△36%)となっており、加美区の減少率が最も大きくなっています。

学校基本調査 生徒数(人)

	区分	S47	S50	S52	S57	S62	H4	H9	H14	H19	H23
中学校	中	565	571	660	605	607	454	450	396	376	353
	加美	348	308	325	368	358	352	311	233	236	199
	八千代	335	309	318	307	298	231	239	211	202	195
	計	1,248	1,188	1,303	1,280	1,263	1,037	1,000	840	814	747

(5) 小中学校の学校規模

学校規模については、小学校は学校教育法施行規則第41条（第79条で中学校に準用）において「小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。」としています。また、旧文部省助成課資料「これからの学校施設づくり」（昭和59年）のなかで、学校の基本的条件を充たすための指標として学校規模を学級数別に次のとおり分類し、12学級以上18学級以下を適正規模としています。

国の基準に基づく多可町の小中学校の学校規模（平成23年度）

学級数	1～5	6～11	12～18	備考
学校規模	過小規模校	小規模校	適正規模校	
小学校	複式学級を編制している	クラス替えができない単学級の学年が1つ以上ある	すべての学年で複数の学級がある	
		中町北小学校 松井小学校 杉原谷小学校 八千代南小学校 八千代北小学校 八千代西小学校	中町南小学校	
中学校		中町中学校 加美中学校 八千代中学校		

2 多可町小中学校の今後

(1) 小学校の児童数の今後

多可町の小学校の児童数は、平成23年度の1,380人から、5年後の平成28年度には1,083人となり、297人の減少になります。

(2) 小学校の地区別児童数・学級数の今後

地区別（平成23年度と平成28年度を比較）で見ると中区の児童数は597人から457人（△140人、△23%）、加美区は426人から315人（△111人、△26%）、八千代区は357人から311人（△46人、△13%）となっております。学級数は平成23年度の52に対して、平成28年度には47となり、5学級減少します。また、複式学級については八千代西小学校が、平成26年度と27年度に1つ、平成28年度に2つできます。八千代北小学校も平成28年度には、1つ複式学級ができることとなります。

さらに30年度までみると、八千代西小学校では、29年度、30年度に2つ、八千代北小学校では29年度に1つ、30年度に2つが複式学級となります。

小学校児童数見込み

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		
	各校 人数	各区 人数	各校 人数	各区 人数	各校 人数	各区 人数	各校 人数	各区 人数	各校 人数	各区 人数	各校 人数	各区 人数	各校 人数	各区 人数	各校 人数	各区 人数	
小学校	中町南	405	597	371	558	360	547	337	504	322	492	302	457	282	433	274	416
	中町北	192		187		187		167		170		155		151		142	
	松井	243	426	229	409	214	386	199	358	183	323	178	315	150	272	144	258
	杉原谷	183		180		172		159		140		137		122		114	
	八千代南	194	357	195	353	194	342	186	317	187	312	203	311	194	283	188	265
	八千代北	93		83		83		71		71		61		50		46	
	八千代西	70		75		65		60		54		47		39		31	
	計	1,380		1,320		1,275		1,179		1,127		1,083		988		939	

小学校学級数見込み

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
小学校	中町南	13	12	12	12	12	12	12
	中町北	7	7	7	6	6	6	6
	松井	8	8	7	7	7	7	6
	杉原谷	6	6	6	6	6	6	6
	八千代南	6	6	7	6	6	7	6
	八千代北	6	6	6	6	6	5	5
	八千代西	6	6	6	5	5	4	4
	計	52	51	51	48	48	47	45

二つの学年の児童数が合わせて16人以内（国基準。兵庫県基準は14人以内。）の場合は複式学級となります。ただし、第1学年の児童を含む学年にあっては、8人以内となります。今回は国基準で試算しています。

(3) 中学校の生徒数の今後

多可町の中学校の生徒数は、平成23年度の747人から、5年後の平成28年度には670人となり、77人の減少になります。

(4) 中学校の地区別生徒数・学級数の今後

地区別（平成23年度と平成28年度を比較）で見ると、中区の生徒数は353人から289人（△64人、△18%）、加美区は199人から203人（+4人、+2%）、八千代区は195人から178人（△17人、△9%）となっており、中区の減少率が最も大きくなっています。この時点では、加美区でわずかに増加がみられるものの、平成36年度までをみると、すべての校区で6学級以下となり、加美区と八千代区では1学年1学級の学年が出てきます。

中学校生徒数見込み

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
中学校	中 町	353	352	315	320	286	289	274	272	258	230	220	199	203	196
	加 美	199	193	210	221	225	203	201	184	183	157	138	131	114	120
	八千代	195	190	196	196	188	178	164	165	164	153	147	147	130	118
	計	747	735	721	737	699	670	639	621	605	540	505	477	447	434

中学校学級数見込み

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
中学校	中 町	10	10	9	9	9	9	9	8	8	7	7	6	6	6
	加 美	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	5
	八千代	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	4
	計	22	22	21	21	21	21	21	21	20	20	19	18	17	15

(5) 小中学校の学校規模の今後

学校規模については、平成28年度には、小学校では八千代北小学校と八千代西小学校の2校が過小規模校となります。中学校は変わりません。

国の基準に基づく多可町の小中学校の学校規模（平成28年度予測）

学級数	1～5	6～11	12～18	備考
学校規模	過小規模校	小規模校	適正規模校	
小学校	複式学級を編制している	クラス替えができない単学級の学年が1つ以上ある	すべての学年で複数の学級がある	
	八千代北小学校 八千代西小学校	中町北小学校 松井小学校 杉原谷小学校 八千代南小学校	中町南小学校	
中学校		中町中学校 加美中学校 八千代中学校		

1 学校の小規模化の課題

(1) 教育上の課題

* 人間関係の固定化

子どもたちは集団の中で、学習面はもちろん多くの友人の様々な考え方に触れ、多様な人間関係の中で切磋琢磨しながら成長していきます。

しかし、学校の小規模化が進むと効果的なクラス替えができないため、生活面において人間関係が固定化し友人が増えないなど、自己形成に必要な集団生活が十分にできないことや、友人関係にトラブルがおこると後々まで影響が残る等の課題が考えられます。

学習面においても、友人の様々な考え方に触れ、自他を比較し自分の考えを見つめなおし、考えを深めたり、高めたりする個と集団の学び合いや、学習意欲や競争心にも課題が残ります。

* 限られる選択肢

運動会や生活発表会などの学校行事においては、少人数のため種目や演目に限界があり、行事としてのダイナミックさに欠ける等の事柄が懸念されます。

中学校では子どもたちの興味や関心に対応できる、多様な部活動が成立しないなどの課題も考えられます。

(2) 学校運営上の課題

* 教員の負担・連携

学校の小規模化が進むと、学校の校務分掌（事務処理の役割分担）の内容や量は、学校の規模による差異が少ないため、小規模校の少数教員ではそれだけ一人当たりの負担が増えることとなります。緊急事態などが生じた場合には、適切な対応がとれる人数が必要です。

また、同じ学年や教科の教員同士で指導方法の工夫や改善を相談したり、一緒に教材を研究するなどの協力や連携が十分にできないなどの課題が生じてきます。

* 中学校の教員配置

中学校では、それぞれの教科の教員が必要です。小規模の学校ではすべての教科に対応できるだけの教員が確保しにくい場合もあります。

2 学校規模の適正化の必要性

小規模校では、児童生徒数が少ないことから、一人一人に目が行き届き、人間関係が深まりやすいなど、小規模校ならではの良い面があります。しかし、人間関係が固定化することや集団活動への影響など学校の規模そのものに起因する課題があり、それらを克服し教育効果を高めていくためには、一定の規模を確保していく必要があると考えます。

また、学校は、生きる力を身につける場であるとともに、多様な考えや体験を持つ児童生徒が集団を通して切磋琢磨し社会性を培う場です。

効果的な教育活動を展開するには、教科などの学習はもとより、運動会、生活発表会などの学校行事やクラブ・部活動等においても、一定規模の集団を確保する必要があります。

児童生徒の個性を伸ばし、社会性を育て、生きる力を身につけるためには、学習や生活の場として望ましい学校規模（＝適正規模）を、実現する必要があると考えます。

第3章 多可町の学校規模や適正配置の基本方針

1 学校規模適正化の基本的な考え

小規模な学校には良い面と心配される面がありますが、小規模化が進めば進むほどデメリットとしての影響のほうが大きいと懸念します。したがって子どもたちにとって望ましい教育環境を提供するためには、「クラス替えができることの効果」や「子どもたちの適度な切磋琢磨が必要である」という観点からも、小学校においてはクラス替えが可能な1学年2学級以上(6学年で12学級以上)、中学校においてはクラス替えが可能であり、かつ各教科で専門の教員を配置しやすい1学年3学級以上(3学年で9学級以上)の学校規模が望ましいと考えます。

しかし、多可町では、平成23年度において小学校では7校中6校が1学年1学級（単学級）であり、平成28年度には複式学級が生じる学校が複数出てきます。また、中学校では、平成23年度ですでに2校が1学年2学級となっており、平成33年度以降は1学年1学級（単学級）となる学校も出てきます。

こうした状況から、多可町では答申の内容を尊重し、次の考え方で学校規模適正化について検討を進めることとします。

多可町における適正な学校規模（※1）

小学校	複式学級が生じないこと
中学校	1学年 2学級以上が確保できること

2 学校の適正配置について

学校の適正配置を検討するに当たっては、中長期的に適正な学校規模を確保するとともに、全町的なバランスを考慮することが重要であると考えます。また、学校と地域の歴史的、社会的なつながりにも注意が必要です。併せて、次の点にも配慮することとします。

ア 通学距離

①小学校

通学距離は、徒歩により概ね4 km以内とします。ただし、通学距離が4 kmを超える場合には、バスなどの通学手段を検討します。

②中学校

通学距離は、徒歩および自転車により概ね6 km以内とします。ただし、6 kmを超える場合には、バスなどの通学手段を検討します。

イ 通学時間

通学時間については、小学校、中学校ともバス等を利用する場合も含めて、概ね30～60分程度になるように配慮します。

3 「地域の学校教育のあり方を考える会」の設置

答申の内容に基づき、今後、多可町における適正な学校規模（※1）が維持できない状況が生じる場合には、「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置し、適正な学校規模や適正配置について検討することとします。

第4章 学校規模適正化の実現に向けた具体的な方策

1 「地域の学校教育のあり方を考える会」の設置

町内の小中学校に、多可町における適正な学校規模（※1）が維持できない状況が予測される場合は、「地域の学校教育のあり方を考える会」（以下「考える会」という。）を設置し、子どもたちにとって望ましい教育環境を実現するために必要な学校規模について検討することとします。

「考える会」を設置する地域の範囲については、別に教育委員会が定めます。

2 協議内容

「考える会」では、保護者や地域の意見を幅広く取り上げ、学校の小規模化とそれに伴う諸課題を地域の問題として共有した上で、以下のことについて協議を行います。

- (1) 小学校の規模の適正化に向けた具体的な方策
- (2) 中学校の規模の適正化に向けた具体的な方策

3 協議期間

「地域の学校教育のあり方を考える会」での協議期間は、考える会設置後、原則2年間とし、学校規模適正化についての意見書をまとめることとします。

おわりに

多可町小中学校規模適正化基本方針は、本年2月に多可町学校規模適正化検討委員会よりいただいた答申に基づき、今後の児童生徒数の動向や社会状況の変化などを踏まえ策定しました。

学校の望ましい規模の実現にあたっては、子どもたちのよりよい教育環境を提供することを目的としながらも、地域と学校、保護者、行政が共に協力して検討していくことが大切だと考えています。

本方針を基に、理想的な学校運営の実現に向けて努力し、21世紀に向けてたくましく生きる子どもたちを育成し、本町のめざす「人」づくりにつなげていきます。

多可町子ども憲章（平成19年11月19日制定）

1 未来

わたしたちは、夢と希望をもち、未来へ向かってたくましく歩んでいきます。

1 友情・思いやり

わたしたちは、誰とでも親切に接し、みんなが笑顔でいられるようにします。

1 命・人権

わたしたちは、いじめや差別をなくし、一人ひとりの命と人権を大切にします。

1 責任

わたしたちは、自分の言葉や行動に責任を持ち、積極的に何事にも取り組みます。

1 感謝

わたしたちは、家族、友達、お世話になっている人たちへの感謝の気持ちを持ち続けます。

1 マナー

わたしたちは、マナーを守り、進んであいさつをします。

1 ふるさと

わたしたちは、豊かな自然に恵まれたこのふるさとを愛し、文化や自然を大切にします。

中学校生徒数・学級数推計表

H18～H16生まれ H19～H17生まれ H20～H18生まれ H21～H19生まれ H22～H20生まれ H23～H21生まれ H24～H22生まれ H25～H23生まれ H26～H24生まれ H27～H25生まれ H28～H26生まれ H29～H27生まれ H30～H28生まれ R01～H29生まれ R02～H30生まれ

中学校名	学年	R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度		R10年度		R11年度		R12年度		R13年度		R14年度		R15年度	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
中町中	1年	79	2	59	2	74	2	65	2	72	2	75	2	61	2	69	2	63	2	53	2	73	2	38	1	55	2	39	1	34	1
	2年	69	2	79	2	59	2	74	2	65	2	72	2	75	2	61	2	69	2	63	2	53	2	73	2	38	1	55	2	39	1
	3年	89	3	70	2	79	2	59	2	74	2	65	2	72	2	75	2	61	2	63	2	53	2	73	2	38	1	55	2	39	1
	計	237	7	208	6	212	6	198	6	211	6	212	6	208	6	205	6	193	6	185	6	164	5	166	5	132	4	128	4		
加美中	1年	48	2	52	2	39	1	50	2	35	1	51	2	50	2	40	1	30	1	36	1	26	1	24	1	24	1	27	1	21	1
	2年	51	2	48	2	52	2	39	1	50	2	35	1	51	2	50	2	40	1	36	1	26	1	24	1	24	1	27	1	21	1
	3年	77	2	51	2	48	2	52	2	39	1	50	2	35	1	51	2	40	1	36	1	26	1	24	1	24	1	27	1	21	1
	計	176	6	151	6	139	5	141	5	124	4	136	5	136	5	141	5	120	4	106	3	98	3	86	3	77	3	72	3		
八千代中	1年	49	2	44	1	42	1	46	2	30	1	40	1	31	1	29	1	32	1	25	1	24	1	20	1	15	1	18	1	11	1
	2年	44	2	49	2	44	1	42	1	46	2	30	1	40	1	31	1	29	1	32	1	24	1	20	1	15	1	18	1	11	1
	3年	56	2	43	2	49	2	44	1	42	1	46	2	30	1	40	1	31	1	25	1	32	1	24	1	20	1	18	1	11	1
	計	149	6	136	5	135	4	132	4	118	4	116	4	101	3	100	3	92	3	86	3	69	3	59	3	53	3	44	3		
多可町	1年	176	5	155	4	155	4	161	5	137	4	166	5	142	4	138	4	125	4	114	3	133	4	84	3	94	3	84	3	66	2
	2年	164	5	176	5	155	4	155	4	161	5	137	4	142	4	138	4	125	4	114	3	133	4	84	3	94	3	84	3	66	2
	3年	222	6	164	5	176	5	155	4	161	5	137	4	142	4	138	4	125	4	114	3	133	4	84	3	94	3	84	3	66	2
	計	562	16	495	14	486	13	471	13	453	13	464	14	445	13	446	13	405	12	377	11	372	11	311	10	262	9	244	8		

【資料3】

令和3年度 部活動加入状況(令和4年1月現在)

	中町中			加美中			八千代中			合計					
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	計		
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		
軟式野球部	5	3		8	0	1	1	11	2		13	16	6	0	22
ソフトボール部	9	1		10	0	4	4	6	5		11	15	10	0	25
女子バレー部	3	7		10	9	10	19					12	17	0	29
男子バスケットボール部	令和2年度廃部														
女子バスケットボール部	令和3年7月廃部														
男子テニス部	16	3		19	6	6	12	4	10		14	26	19	0	45
女子テニス部	8	6		14	3	4	7	12	8		20	23	18	0	41
陸上競技部	8	3		11	8	9	17					16	12	0	28
サッカー部	6	10		16	8	11	19	0	4		4	14	25	0	39
剣道部	2	10		12								2	10	0	12
吹奏楽部	8	10		18	3	5	8	5	10		15	16	25	0	41
美術部															
計	65	53	0	118	37	50	87	38	39	0	77	140	142	0	282

は合同チーム

子どもたちにとって望ましい教育環境のまとめ

学習面	学 習	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人にきめ細やかな丁寧な指導が受けられる ○児童生徒が協力し合える ○他者との関わりが多い、いろいろな個性と出会う ○充実した学習活動が保障される ○教員が余裕を持って児童生徒に関われる ○落ち着いた環境で学習できる ○専門的な指導が受けられる ○少人数でもできる教育スタイルを生み出す ○少人数でもできる多可町の教育スタンダードをつくる
	行 事	<ul style="list-style-type: none"> ○たくさんの児童生徒による集団活動ができる
	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動が選択できる ○部活動に入らない選択ができる
生活面		<ul style="list-style-type: none"> ○クラス替えができる ○子どもの可能性を伸ばせる ○いろいろな価値観に触れることができる ○子どもにとって刺激が多い ○集団行動が身につけられる ○コミュニケーション能力を身につけられる ○多くの教員で、多くの価値観で指導できる
学校運営面		<ul style="list-style-type: none"> ○適正な人数の教員配置がある ○教員の『働き方改革』が実現できる ○教員が複数の学校を行き来して指導できる
通 学		<ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心な登下校ができる ○通学時間による不利益が生じない ○子どもたちの有意義な時間が確保できる
その他	P T A	<ul style="list-style-type: none"> ○顔の見えるP T A活動 ○時代に合わせた多様な教育環境
	地域 定住	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民や特色ある文化との連携 ○地域に支えられる学校 ○大人が、地域が、寛容で住みやすい地域づくり ○大人も子どもも住みやすい地域 ○帰りたくなるような地域
	財政	<ul style="list-style-type: none"> ○行政の覚悟（町費による教員の確保等）
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○大人の覚悟がわかる学校（地域の中にある学校） ○誇れる学校

就学前から中学生までのお子さんをお持ちの保護者意見（まとめ）

※令和3年8月19日現在

	説明会 開催日	児童 生徒数	家庭数	動画再生 回数	説明会 参加者	説明会・意見・感想（件）			備考				
						総数	○	△		×	○	△	×
中町南小学校	動画説明	255	193	28	-	9	4	4	1	44.5%	44.5%	11%	
中町北小学校	7月13日	150	107	27	2	9	8	1	0	89%	11%	0%	
松井小学校	動画説明	142	103	20	-	14	9	4	1	64%	29%	7%	
杉原谷小学校	7月6日	114	86	23	13	23	10	9	4	44%	39%	17%	
八千代小学校	7月28日	208	151	28	11	20	10	9	1	50%	45%	5%	
計 小学校		869	640	126	26	75	41	27	7	55%	36%	9%	
中町中学校	7月7日	212	201	17	41	12	8	3	1	67%	25%	8%	
加美中学校	7月2日	139	125	16	51	38	23	13	2	61%	34%	5%	
八千代中学校	7月16日	135	131	16	33	29	19	7	3	66%	24%	10%	
計 中学校		486	457	49	125	79	50	23	6	63%	29%	8%	
みどりこども園		83	80	22	4								
あさかこども園	6月21日	116	95	19	2	18	8	7	3	44%	39%	17%	
四恩こども園		61	50	15	1								
キッズランドかみ	6月24日	124	103	13	13	18	11	6	1	61%	33%	6%	
キッズランドやちよ	6月22日	86	80	30	6	19	16	3	0	84%	16%	0%	
計 こども園		470	408	99	26	55	35	16	4	64%	29%	7%	
子育て	6月8日	200	146	17	17	27	18	8	1	67%	29%	4%	
計 就学前乳幼児		200	146	17	17	27	18	8	1	67%	29%	4%	
合計		2,025	1,651	291	194	236	144	74	18	61%	31%	8%	

【資料6】

小学校児童数・学級数推計表(男女別)(中区)

小学校名	学年	H25～H20生まれ		H26～H21生まれ		H27～H22生まれ		H28～H23生まれ		H29～H24生まれ		H30～H25生まれ		R01～H26生まれ		R02～H27生まれ																	
		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度																	
		男	女	児童計	学級数	男	女	児童計	学級数	男	女	児童計	学級数	男	女	児童計	学級数	男	女	児童計	学級数												
中町南小	1年	18	24	42	2	17	21	38	1	21	16	37	2	29	17	46	2	16	7	23	1	20	18	38	2	14	14	28	1	12	7	19	1
	2年	14	18	32	1	18	24	42	2	17	21	38	1	21	16	37	2	29	17	46	2	16	7	23	1	20	18	38	2	14	14	28	1
	3年	27	23	50	2	15	19	34	1	18	24	42	2	17	21	38	1	21	16	37	2	29	17	46	2	16	7	23	1	20	18	38	2
	4年	25	23	48	2	27	23	50	2	18	24	42	1	18	24	42	2	17	21	38	1	21	16	37	2	29	17	46	2	16	7	23	1
	5年	21	20	41	1	27	23	50	2	15	19	34	1	18	24	42	2	17	21	38	1	21	16	37	2	29	17	46	2	16	7	23	1
	6年	27	20	47	2	21	20	41	1	27	23	50	2	27	23	50	2	15	19	34	1	18	24	42	2	17	21	38	1	21	16	37	2
計	132	128	260	10	125	130	255	9	125	126	251	10	127	120	247	10	116	104	220	9	121	103	224	10	117	93	210	9	112	79	191	9	
中町北小	1年	14	14	28	1	11	14	25	1	5	11	16	1	11	16	27	1	6	9	15	1	11	6	17	1	4	7	11	1	9	6	15	1
	2年	13	14	27	1	13	14	27	1	11	14	25	1	5	11	16	1	11	16	27	1	6	9	15	1	11	6	17	1	4	7	11	1
	3年	15	9	24	1	13	14	27	1	13	14	27	1	11	14	25	1	11	16	27	1	11	16	27	1	6	9	15	1	11	6	17	1
	4年	11	11	22	1	16	9	25	1	13	14	27	1	13	14	27	1	11	14	25	1	5	11	16	1	11	16	27	1	6	9	15	1
	5年	13	10	23	1	11	11	22	1	16	9	25	1	13	14	27	1	13	14	27	1	11	14	25	1	5	11	16	1	11	16	27	1
	6年	12	16	28	1	13	11	24	1	11	11	22	1	16	9	25	1	13	14	27	1	13	14	27	1	13	14	25	1	5	11	16	1
計	78	74	152	6	77	73	150	6	69	73	142	6	69	78	147	6	59	78	137	6	57	70	127	6	48	63	111	6	46	55	101	6	
中区全体	1年	32	38	70	2	28	35	63	2	26	27	53	2	40	33	73	3	22	16	38	2	31	24	55	2	18	21	39	2	21	13	34	1
	2年	27	32	59	2	31	38	69	2	28	35	63	2	26	27	53	2	40	33	73	3	22	16	38	2	31	24	55	2	18	21	39	2
	3年	42	32	74	3	28	33	61	2	31	38	69	2	28	35	63	2	26	27	53	2	40	33	73	3	22	16	38	2	31	24	55	2
	4年	36	34	70	2	43	32	75	3	28	33	61	2	31	38	69	2	28	35	63	2	26	27	53	2	40	33	73	3	22	16	38	2
	5年	34	30	64	2	38	34	72	2	43	32	75	2	28	33	61	2	31	38	69	2	28	35	63	2	26	27	53	2	40	33	73	3
	6年	39	36	75	2	34	31	65	2	38	34	72	2	43	32	75	2	28	33	61	2	31	38	69	2	28	35	63	2	26	27	53	2
計	210	202	412	13	202	203	405	13	194	199	393	12	196	198	394	13	175	182	357	13	178	173	351	13	165	156	321	13	158	134	292	12	

【資料7】

小学校児童数・学級数推計表(男女別)(加美区)

小学校名	学年	H25～H20生まれ		H26～H21生まれ		H27～H22生まれ		H28～H23生まれ		H29～H24生まれ		H30～H25生まれ		R01～H26生まれ		R02～H27生まれ													
		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度													
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女												
松井小	1年	9	10	19	1	7	10	17	1	8	10	18	1	6	6	12	1	11	5	16	1	6	4	10	1				
	2年	19	12	31	1	9	11	20	1	8	10	17	1	8	11	19	1	6	6	12	1	6	6	12	1	11	5	16	1
	3年	12	13	25	1	19	12	31	1	7	10	20	1	8	10	18	1	11	8	19	1	8	11	19	1	6	6	12	1
	4年	12	9	21	1	11	14	25	1	9	11	20	1	7	10	17	1	8	10	18	1	11	8	19	1	8	11	19	1
	5年	13	14	27	1	13	9	22	1	19	12	31	1	9	11	20	1	7	10	17	1	8	10	18	1	11	8	19	1
	6年	12	15	27	1	13	14	27	1	11	14	25	1	19	12	31	1	9	11	20	1	7	10	17	1	8	10	18	1
	計	77	73	150	6	72	70	142	6	67	66	133	6	65	65	130	6	49	56	105	6	51	50	101	6	50	44	94	6
杉原谷小	1年	12	8	20	1	7	6	13	1	11	7	18	1	7	10	17	1	6	6	12	1	4	7	11	1	6	5	11	1
	2年	8	11	19	1	12	8	20	1	7	6	13	1	11	7	18	1	4	3	7	1	6	6	12	1	4	7	11	1
	3年	10	16	26	1	8	11	19	1	7	6	13	1	11	7	18	1	7	10	17	1	4	3	7	1	6	6	12	1
	4年	7	6	13	1	10	16	26	1	12	8	20	1	12	8	20	1	11	7	18	1	7	10	17	1	4	3	7	1
	5年	9	14	23	1	7	6	13	1	8	11	19	1	12	8	20	1	7	6	13	1	11	7	18	1	7	10	17	1
	6年	10	3	13	1	9	14	23	1	10	16	26	1	8	11	19	1	12	8	20	1	7	6	13	1	11	7	18	1
	計	56	58	114	6	53	61	114	6	55	54	109	6	55	58	113	6	47	40	87	6	39	39	78	6	38	38	76	6
加美区全体	1年	21	18	39	2	14	16	30	1	19	17	36	2	18	18	36	2	12	12	24	1	15	12	27	1	12	9	21	1
	2年	27	23	50	2	21	19	40	2	14	16	30	1	19	17	36	2	12	14	26	1	12	12	24	1	15	12	27	1
	3年	22	29	51	2	27	23	50	2	14	16	30	1	19	18	36	2	18	18	36	2	12	14	26	1	12	12	24	1
	4年	19	15	34	1	21	30	51	2	21	19	40	2	14	16	30	1	19	17	36	2	18	18	36	2	12	14	26	1
	5年	22	28	50	2	20	15	35	1	21	30	51	2	27	23	50	2	14	16	30	1	19	17	36	2	18	18	36	2
	6年	22	18	40	1	22	28	50	2	20	15	35	1	21	19	40	2	21	19	40	2	14	16	30	1	19	17	36	2
	計	133	131	264	10	125	131	256	10	122	120	242	10	120	123	243	11	96	96	192	9	90	89	179	8	88	82	170	8

小学校児童数・学級数推計表(男女別)(八千代区・全体)

小学校名	学年	H25～H20生まれ		H26～H21生まれ		H27～H22生まれ		H28～H23生まれ		H29～H24生まれ		H30～H25生まれ		R01～H26生まれ		R02～H27生まれ																	
		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度																	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																
八千代小	1年	15	14	29	1	17	15	32	1	16	9	25	1	12	8	20	1	7	8	15	1	10	8	18	1	8	3	11	1				
	2年	16	16	32	1	15	14	29	1	17	15	32	1	13	11	24	1	12	8	20	1	7	8	15	1	10	8	18	1				
	3年	17	23	40	2	16	15	31	1	15	14	29	1	16	9	25	1	13	11	24	1	13	11	24	1	7	8	15	1				
	4年	19	11	30	1	17	23	40	2	16	15	31	1	17	15	32	1	16	9	25	1	16	9	25	1	13	11	24	1	12	8	20	1
	5年	22	24	46	2	19	11	30	1	17	23	40	1	15	14	29	1	17	15	32	1	15	14	29	1	16	9	25	1	13	11	24	1
	6年	17	27	44	2	22	24	46	2	19	11	30	1	16	15	31	1	15	14	29	1	15	14	29	1	17	15	32	1	16	9	25	1
計	106	115	221	9	106	102	208	8	100	87	187	6	94	87	181	6	89	72	161	6	80	65	145	6	75	59	134	6	66	47	113	6	
全体	1年	68	70	138	4	59	66	125	4	61	53	114	4	71	62	133	4	50	44	94	3	43	41	84	3	41	25	66	2				
	2年	70	71	141	5	67	71	138	4	59	66	125	4	61	53	114	4	46	38	84	3	50	44	94	3	43	41	84	3				
	3年	81	84	165	5	71	71	142	5	67	71	138	4	59	66	125	4	71	62	133	4	46	38	84	3	50	44	94	3				
	4年	74	60	134	4	81	85	166	5	71	71	142	5	67	71	138	4	59	66	125	4	61	53	114	4	71	62	133	4	46	38	84	3
	5年	78	82	160	4	77	60	137	4	81	85	166	5	71	71	142	4	67	71	138	4	59	66	125	4	61	53	114	4	71	62	133	4
	6年	78	81	159	4	78	83	161	5	77	60	137	4	81	85	166	5	71	71	142	4	67	71	138	4	59	66	125	4	61	53	114	4
計	449	448	897	26	433	436	869	27	416	406	822	26	410	408	818	25	375	361	736	23	354	334	688	22	330	304	634	21	312	263	575	19	

【資料9】

【資料10】

○地域の学校教育のあり方を考える会設置要綱

平成24年4月26日教育委員会告示第6号

(目的)

第1条 この要綱は、多可町子どもたちにとって望ましい教育環境を実現するのに必要な学校の規模や配置について検討するために設ける「地域の学校教育のあり方を考える会」（以下「考える会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 考える会は、地域の学校規模適正化等について検討するとともに多可町全体の学校規模適正化に向けた情報を共有するものとする。

(所掌事務)

第3条 考える会は、次に掲げる事項について検討し、多可町教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に意見書を提出する。

- (1) 小学校の規模の適正化に向けた具体的な方策について
- (2) 中学校の規模の適正化に向けた具体的な方策について
- (3) 前2号に定めるもののほか、教育長が必要と認める事項

(組織)

第4条 考える会は、30人程度の委員をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が委嘱する。

- (1) 地域の代表者
- (2) 保護者代表
- (3) 学校・教育関係者
- (4) 識見を有する者

3 委員の任期は原則として意見書の提出までとする。委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 考える会に会長1人、副会長2人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は考える会を代表し、議事その他の会務を総理する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ決めておいた順位に従い、その職務を代行する。

(会議)

第6条 考える会は必要に応じて会長が招集し、会議の議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決する

ところによる。

4 会議は公開とする。ただし、委員の申し出があれば、会議に諮り公開しないことができる。

5 会議の会議録は、考える会の承認を得て公開するものとする。

(部会)

第7条 会長は、必要に応じて考える会に部会を置くことができる。

2 部会の構成員及び部会長は、考える会委員の中から、その都度、会長が指名する。

(関係者の出席)

第8条 考える会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見又は説明を聞くことができる。

(傍聴)

第9条 会議は、会長の許可を得て傍聴することができる。ただし、第6条第4項により、秘密会としたときは、この限りでない。

2 会長は、必要があると認めるときは、傍聴人の退場を命ずることができる。

(会議結果の報告)

第10条 会長は、会議の結果を教育長に報告するものとする。

(庶務)

第11条 考える会の庶務は、教育総務課において処理する。

(補則)

第12条 この要綱に定めるもののほか、考える会の運営について必要な事項は、会長が考える会に諮って定めるものとする。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則 (平成27年2月26日教委告示第1号)

この告示は、公布の日から施行する。

附 則 (平成27年3月27日教委告示第3号)

この告示は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (令和2年5月28日教委告示第8号)

この告示は、平成2年6月1日から施行する。

附 則 (令和2年7月30日教委告示第9号)

この告示は、平成2年7月30日から施行する。

【資料11】

地域の学校教育のあり方を考える会委員名簿

役 職	氏 名	所 属	備 考
会 長	宮崎 信彦	識見を有する者	
副 会 長	橋本 衛	中町中学校 校長	
副 会 長	伊藤 竜太	八千代中学校 P T A代表	
委 員	藤原 恵美	識見を有する者	
委 員	多方 正行	識見を有する者	
委 員	西田 修	中町南小学校区 代表区長	
委 員	熊田 勝彦	中町北小学校区 代表区長	
委 員	足立 浩之	松井小学校区 代表区長	
委 員	藤田 肇秀	杉原谷小学校区 代表区長	R3
	畑中 重信		R2
委 員	安藤 和志	八千代小学校区 代表区長	R3
	白石 典之		R2
委 員	堀口 善弘	八千代小学校区 代表区長	
委 員	笹倉 敏弘	中町南小学校 P T A代表	R3
	中 孝浩		R2
委 員	植山 恵	中町北小学校 P T A代表	R3
	橋本 行広		R2
委 員	寺尾 元基	松井小学校 P T A代表	
委 員	足立 吉継	杉原谷小学校 P T A代表	R3
	足立 宗貞		R2
委 員	藤田 貴久	八千代小学校 P T A代表	
委 員	植田 美香	八千代小学校 P T A代表	
委 員	中里 尚子	中町中学校 P T A代表	R3
	朝妻 香織		R2
委 員	西村 恵子	加美中学校 P T A代表	R3
	笹倉 祐子		R2
委 員	藤村紗綾佳	中区こども園 保護者代表	R3
	安平りつ子		R2
委 員	岩本 亜希	キッズランドかみ 保護者代表	R3
	藤田 佳織		R2
委 員	宮崎あゆみ	キッズランドやちよ 保護者代表	R3
	管家 知子		R2

役 職	氏 名	所 属	備 考
委 員	長澤 高意	加美中学校 校長	
委 員	神崎 進吾	八千代中学校 校長	R3
		中町南小学校 校長	R2
委 員	足立 徳昭	中町南小学校 校長	R3
		八千代小学校 校長	R2
委 員	大久保修也	中町北小学校 校長	R3
	谷尾 秀伸		R2
委 員	荻野 学	松井小学校 校長	
委 員	吉田 重徳	杉原谷小学校 校長	
委 員	竹中 裕貴	八千代小学校 校長	R3
		八千代中学校 校長	R2

多可町教育委員会

役 職	氏 名	所 属	備 考
教育長	越川 昌信	多可町教育委員会	R3. 1. 1～
	岸原 章		～R2. 12. 31

事務局	藤本 志織	教育総務課 理事兼課長	
	山本 聡	教育総務課 副課長	
	吉田 勇二	学校教育課 課長	
	吉川 成悟	学校教育課 副課長	R3

事務局	宮原 文隆	教育総務課 理事兼課長	R2
	高橋 敏	教育総務課 副課長	
	届木 豊和	学校教育課 副課長	

【資料12】

地域の学校教育のあり方を考える会 協議経過

開催日時	協議事項等
令和2年 7月31日(金) 場所：ベルディーホール 会議室	◎第1回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・会長、副会長の選出について ・意見書の依頼について ・小中学校の児童生徒数の現状と今後の推移について ・傍聴・記録・公開等について
令和2年 9月 9日(水) 場所：ベルディーホール 会議室	◎第2回地域の学校教育のあり方を考える会 ・各区によるワークショップ
令和2年10月14日(水) 場所：ベルディーホール 会議室	◎第3回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・小・中学校での現状の課題と問題点について ・子どもたちの望ましい教育環境について ・望ましい教育環境を実現するために
令和2年11月25日(水) 場所：多可町交流会館	◎第4回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・子どもたちの望ましい教育環境について ・望ましい教育環境を実現するために
令和3年 3月10日(水) 場所：ベルディーホール 会議室	◎第5回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・子どもたちの望ましい教育環境のまとめについて ・望ましい教育環境のモデルについて
令和3年 6月 9日(水) 場所：ベルディーホール 会議室	◎第6回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・統合に向かう場合の課題や不安について ・住民説明会について
令和3年 8月 5日(木) 場所：多可町交流会館	◎第7回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・住民説明会の意見について
令和3年 9月 2日(木) 場所：八千代プラザ大ホール (リモート11名)	◎第8回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・小学校について

令和3年10月15日(金) 場所：ベルディーホール 会議室	◎第9回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・小学校について ・統合中学校の場所について ・中学校統合の時期について
令和3年12月1日(水) 場所：ベルディーホール 会議室	◎第10回地域の学校教育のあり方を考える会 【議題】 ・住民説明会について ・中学校の統合時期について ・意見書について
令和4年1月21日(金) 場所：役場大会議室	◎地域の学校教育のあり方を考える会 ・意見書の提出について ※会長、副会長から教育長へ

◎保護者説明会

開催日時	開催場所
令和3年6月8日(火)	子育てふれあいセンター（就学前乳幼児保護者）
令和3年6月21日(月)	中プラザ（中央公民館）（中区こども園保護者）
令和3年6月22日(火)	八千代プラザ（八千代区こども園保護者）
令和3年6月24日(木)	加美プラザ（加美区こども園保護者）
令和3年7月2日(金)	加美中学校（保護者）
令和3年7月6日(火)	杉原谷小学校（保護者）
令和3年7月7日(水)	中町中学校（保護者）
令和3年7月13日(火)	中町北小学校（保護者）
令和3年7月16日(金)	八千代中学校（保護者）
令和3年7月28日(水)	八千代小学校（保護者）

※中町南小学校、松井小学校は動画視聴による説明

◎区長会

開催日時	開催場所
令和3年6月16日(水)	加美プラザ（加美区区長協議会杉原谷地区）
令和3年6月17日(木)	加美プラザ（加美区区長協議会松井庄地区）
令和3年6月30日(水)	八千代プラザ（八千代区区長協議会）
令和3年7月2日(金)	中プラザ（中央公民館）（中区区長会）
令和3年11月11日(木)	役場大会議室（区長会役員会）
令和3年11月18日(木)	ベルディーホール会議室（区長会全体会）

◎住民説明会

開催日時	開催場所
令和3年10月29日(金)	ベルディーホール
令和3年10月30日(土)	八千代中学校
令和3年10月31日(日)	加美中学校

◎たかTV

放映期間	放映内容
令和3年 9月30日(木) 午後5時00分から 令和3年10月 2日(土) 午後5時00分まで	たかTVによる地域の学校教育のあり方を考える会住民説明会(20分番組)を実施

◎広報たか

発行日	掲載内容
令和2年10月号 令和2年10月1日	これからの学校教育を考える ～子どもたちの未来のために～
令和3年6月号 令和3年6月1日	地域の学校教育のあり方を考える会 ・協議の経過と今後の進め方について
令和3年7月号 令和3年7月1日	地域の学校教育のあり方を考える会 ・令和2年度の出生数 ・子育て世代への説明会
令和3年8月号 令和3年8月1日	月刊 地域の学校教育のあり方を考える会 ・みなさんの意見をまとめました ～こども園保護者～
令和3年9月号 令和3年9月1日	月刊 地域の学校教育のあり方を考える会 ・多可町サミット 中学生の本音が爆発
令和3年10月号 令和3年10月1日	月刊 地域の学校教育のあり方を考える会 ・中学校の統合への保護者の意見(全世代のまとめ)
令和3年11月号 令和3年11月1日	月刊 地域の学校教育のあり方を考える会 ・中学校の統合について ・小学校の統合について
令和3年12月号 令和3年12月1日	月刊 地域の学校教育のあり方を考える会 ・住民説明会を開催しました
令和4年1月号 令和4年1月1日	月刊 地域の学校教育のあり方を考える会 ・財政面～学校の維持管理費について～
令和4年2月号 令和4年2月1日(予定)	月刊 地域の学校教育のあり方を考える会 ・意見書について(予定)

多教総第468号
令和2年7月31日

地域の学校教育のあり方を考える会会長 様

多可町教育長 岸原 章

多可町立小中学校の規模の適正化に向けた具体的な方策についての
意見書の提出について（依頼）

地域の学校教育のあり方を考える会設置要綱（平成24年4月26日教育委員会告示第6号）第3条の規定に基づき、多可町立小中学校の規模の適正化に向けた具体的な方策について意見を求めます。